

ちいきのなかま通信

No.76



発行日：2019年9月6日

発行者：特定非営利活動法人 ちいきのなかま

にっぽん子育て応援団主催地域人材交流研修会（全国で展開）に 「ちいきのなかま」が協力して佐世保で開催します！

にっぽん子育て応援団は「子どもを真ん中において子どもの成長にとって不可欠な家族・子ども同士の関わり、地域や社会の多くの人との関わり、それぞれが大切な役割を果たせるよう支える社会」を目指している団体です。そしてこの研修会にはにっぽん子育て応援団が公益法人さわやか福祉財団から地域包括ケアにおける地域連携の可能性を探り、既存の制度にとらわれない地域福祉・地域づくりに向けた提案・周知啓発を子ども・子育て分野から行う事業、として委託されて2015年から実施されてきた事業です。佐世保では当法人にお声かけいただき、現場でも今課題となっているダブルケア～介護と子育て同時進行～をテーマに課題解決を探ります。関心ある方ぜひご参加ください。

この秋ちいきのなかまはロビイング??

今年ちいきのなかまは会として積極的に外部に働きかけることを決め、働きかけています。今回の働きかけというのは「ロビイング」です。私たちは「産前産後ケアからの切れぬない支援」を掲げて支援の人と仕組みを作ってきました。ファミサポではできないことを民間で取り組んできた、そして事業を育てています。でもそのことの意義を知る人は限られています。実際事業（ファミサポ含む地域子育て支援事業）自体の意義や役割の理解も出来ていないのだと思います。それは仕方がないことで、この20年間の家族と子育ての問題や課題の変化が社会的にはほとんど関心外のことだからです。

2000年を前後して佐世保市にも地域子育て支援事業（この名称は後付け）が誕生しました。多くの母親が望んだ「乳幼児を持つ親が雨でも遊びに行ける屋内の公園」や「必要な時に子どもを預けることができる仕組み」が動き始め、その当時、母親を甘やかしていいのか…の声はありつつも家族・地域の育児力の低下や密室育児の問題がクローズアップされており、必要だという認識で事業は今に至ります。この間も子育て環境は変化し続けました。幸いファミサポ事業は当初から担当課との連絡会や困り事例の報告相談をしており、その変化に対応して一昨年仕様書の内容を一部改訂いたしました。でもほとんどの地域子育て支援事業は現場が抱える情報や問題が社会と共有できていない。社会の認識は未だに2000年前後の問題意識だし、母親甘やかすなの声は今も健在です。だからこそ、動き出しています。慣れないことで不器用ですが、地道にコツコツは相変わらず。エビデンスを固めながら社会に働きかけます。このようなことにお強い方がいらしたらぜひそのコツと方法を教えてください。

いらすとでみるちいきのなかま「〇〇のこ～んなかんじ」
ちいきのなかまの周りで起こる出来事をイラストで紹介☆

おにんぎょうは こ～んなかんじ by 蓮すけ



私が障がいのある人たちの施設に就職したのはもう38年前です。施設は当時の分類では「更生施設」です。障がいのある大人の方が生活する施設でした。山梨県牧丘町という美味しいぶどうの産地に新設の施設でした。私はやる気まんまんの新入社員でした。多動な動きと無駄に強い体力、空気の読めないドジな新人の私は牧丘の自然と周囲の寛大なみなさんに支えられ、言いたい事を言い、トップには叱られながらもめげずに思うことをしてみる職員でした。

当時の障がい者施設は社会の中では「ワルモノ」でした。職員が暴力的で、不潔で変な匂いが充満していて、奇声と怒鳴り声が響く…みたいなの。でもこの施設はトップが施設の必要性和役割を知らしめたいと設立した施設で、玄関の鍵はかけない、先輩職員も選りすぐり…私は本当に多くを学びました。あの場所で「自分」が誕生したと言っても過言ではないです。と言いつつながら愛の力には勝てず、自分の幸せを最優先させていただき、2年で寿退社、長崎に移り住むことになりました。この2体のお人形は当時担当していた2人の自閉症の女性のお母様たちから退職の時に頂いたものです。こんな私でしたが退職を惜しんで下さり、でも幸せになってくださいという言葉が添えられていました。彼女たちは私に自閉症の弟が居ることをご存じで、だからこそ私の結婚が嬉しいと言っていました。いつの日か障がい者福祉の分野に戻ってください、と言われつつ、それは果たせないままで終わりそうです。でもこのお人形の存在に励まされながら、まだしばらくは今の仕事でチャレンジを続けていこうと思いました。(M)



産前産後のママを応援するチャリティ上映会

「秩父の通過儀礼」上映とサンバのトーク

作品「秩父の通過儀礼」

このフィルムは埼玉県秩父地域でかつて取り組まれていた通過儀礼を記録したものです。誕生した子どもの健やかな成長を祈り、伝承されてきた儀礼を行う様子を記録した貴重なものです。

かつて子どもは「地域の宝」でした。子どもは生まれた日から地域の子どものとして育ちました。共同体内は助け合わないと皆が生きられなかった時代があり、それぞれが役割をもち、その中で子どもたちを育てることは共同体の未来を維持する基本でもありました。同時に、生命誕生の神秘への畏れをもち、神に感謝し祈りを捧げることは大事な営みだったのでしょ。



時代は変化し共同体文化は風前の灯です。子どもの誕生を尊び、次代の担い手として地域の文化と生きていく術を伝承してつないできた歴史も過去のものになっているのかもしれませんが。この上映会ではその過去の文化に触れて私たちの中のうずもれた記憶を取り戻してみたいと考えています。60代、70代の方々には体験があるかもしれません。上映の後教えていただければ幸いです。

なお、上映会はチャリティイベントとして開催し、収益はちいきのなかまが実施する「産前産後サポート事業」で活用させていただきます。

プレ企画 映画上映

2019年9月27日（金）①14:30～15:30 ②19:00～20:00

会場 つどい場ゆいまーる（佐世保市常盤町5-5サンクル三番館115）

参加費 ¥2,500（ワンドリンク付き）

本企画 映画上映とサンバ（産婆）トーク（お産と共同養育という文化について）

2019年9月28日（土）13:30～15:00 参加費 ¥2,000

会場 中央公民館（常盤町6-1）

申込 TEL 090-9498-3608 またはNPO法人ちいきのなかまHPから

産前産後ケアサポーター養成研修を開催します

9月27日（金）10:00～12:00 会場：モンブレアまたはボランティアセンター別館

①産前産後ケアの基礎知識 株式会社マイユティックス 演者 文子さん

②調理等実技実習 NPO法人ちいきのなかま

●これからベントや講座の予定●

よろしければ予定に書き加えていただければ幸い。

イベントには有料・無料、託児の有無などあります。事前にお問い合わせください。

イベント名	日時	会場	内容
ぼちぼちヨガ教室	9月30日(月) 13:50~14:50	ボランティア センター別館	定期開催 参加費¥500 会員外¥800
おもちゃ図書館	9月17日(火) 10:00頃から	ファミサポ事務所	参加費無料
産後ケアサポーター 養成研修	9月27日(金) 10:00~12:00	モントブレア (予定)	調理実習・産前産後ケア実 技研修

寄付のご報告



佐世保市のつきやま産婦人科様より寄付のお申し出をいただきました。継続的に応援しますよ！と仰っていただき私たちは自分たちの取り組みに自信を持つことができました。心から感謝し、このご寄付を子どもと子育て家庭のために活用させていただくことを改めて誓わせていただきます。

後記

最初にお知らせしましたようにロビイングに取り組み、エビデンスを確認すべく、久々東北地域で1990年代から子育て支援に取り組んできた第一世代に会い続け、近年の状況の聞き取りやらを行っています。一方で横浜市が実施した「子育て支援アンケート～地域子育て支援拠点・親子のつどいの広場の利用と地域への関心・愛着の関係～」を読んでいます。子育てや家族のあり方が変化してきたことを官民が共有して新たな支援のあり方を模索した地域と課題の変化をスルーした地域では今後の展望に差が開くんだろうな、ということはわかりました。現場を見たかどうかの話だと思う今日この頃でした。

NPO法人ちいきのなかま

入会・会員(正・賛助)会員継続のご案内



正会員：総会議決権あり 入会金¥1,000 年会費¥6,000

賛助会員：総会議決権なし 年会費¥3,000

主な特典：各種事業会員特別料金にてご優待

連絡先 NPO法人ちいきのなかま

〒857 0022長崎県佐世保市山手町9-19

携帯 090-9498-3608

E-mail:chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp

HP:http://chiikinonakama.boj.jp/